

KMM全日通達

10.6 No.3

共産主義青年同盟全日委員

全日から兎結集し、10.21防征庁へ!!

① 全日のKMMの同志諸君、10月半等の大爆発を目前に控えての現在、我々は一糸の塵りもなし政治的意識統一と強固な斗争体制の確立を要求される。10.20-10.21-10.22と連続する10月半等を我々の革命的に貫徹しきれるか否かは、オニ次BUND建設の試金石である。具体的な赤ハルの隊列を現現し得ることに全力を尽きなくてはならぬ。しかも未だ「党の革命」が完了したわけでは、このオニ次は、我々に二重の任を負わせているのである。「左」右の日和見主義としての赤電気・叛旗派

② 以上の点を前提的に押さえた上、次に10月半等に向ける情を把握の意志一致を行ってしまえ。

③ オニ次大戦後成立したところの米・ソの均衡を前提の条件下に於ける米帝の一元的な世界支配体制の現在の局面への動搖（について明きらかにしていかなければならぬ）。米帝の一元的な支配体制は、オニ次大戦の過程における米帝の大幅な経済的発展と他の帝国主義諸国の疲弱を基底的根拠とし、かつ東欧・中国「革命」を右進的武装民族解放斗争を政治的・軍事的根拠にして、世界市場の再編成、再統一を口説き革命を、即ち海陸反革命の統一の展開を唯一可能にするものとしてあった。その柱的なる表現としてIMH・GATT・SATO・安保・SEATO等があったのである。このオニ次大戦後の世界体制は、量的に拡大した「中核者国家」とその「左派」と結合する右進的武装民族解放斗争、更には先進国ロケット・ミサイルの斗争に規定されて、優れて政治的・軍事的要因な経済的要素と一体化されて展開されることを特徴としてゐる。かつそのことを世界経済相対的の現実形態的な推転（オニ次大戦を前後として）をそのそれの傾向そのものをも規定してゐるのである。つまり、重工業↓化学工業↓耐久消費財↓宇宙産業↑航空機、在軍機台等を念及し、このように変化するべき組織的独占体の依拠する産業都市における資本階級の階級における米帝と他帝国主義の力量の圧倒的な較差と、IMHに示される国際金融力の較差に規定されて、各帝国主義の不均等発展の傾向そのものは顕著となりつつもそのことを二元体制なら「多元化」への推転としてストレートに展開してゆくのははなはだ相違が定着化してきてゐるのである。従って不均等発展の傾向そのものな他帝国主義の米帝への平等化としてあるのだから、水平分業の比重を強まず、それは垂直分業の固定化→スロウ化

の傾向である。我々は共産主義の価値観の確立、在野一回同時革命戦略、在野一回同時革命戦略、恒常的武装斗争等の基本的な主張を明確にしていく一環として、これを担ふべき党主体そのものの強化を打ち取ってゆくべきなわけはなからぬ。しかもこれらの問題が未だ党内諸等の止揚となる状態を内包して展開されざるを得ないことを、はつきりと対象化しなければならぬ現実には、我々にとって大きな重荷を背負っており、大級運動への赤ハルの圧倒的な登場を阻害してゐるのである。だが我々はこうして問題そのものがオニ次BUNDの継承の中より新たな革命的前進的運動としていく以外に一切道はない我々にとって不可避な過程なのであり、そのことを自身を内的に受け止めて、同じく我々の日本共産党、コミンインターンに確信を込めて闘争を

一途に世界市場の分断→帝国主義戦争を予言する「スロウ化」の阻止を期す。我々の「SATO」は、IMHに示される国際金融力の較差に規定されて、各帝国主義の不均等発展の傾向そのものは顕著となりつつもそのことを二元体制なら「多元化」への推転としてストレートに展開してゆくのははなはだ相違が定着化してきてゐるのである。従って不均等発展の傾向そのものな他帝国主義の米帝への平等化としてあるのだから、水平分業の比重を強まず、それは垂直分業の固定化→スロウ化

④ 次に当面の被派斗争について簡単に触れて
おこう。

① 個別改良主義 自派主義として露骨的斗
争に敵対する社民、日共スターリン派は、革マ
ルは革命運動にとつて反革命的程柄でなく、
打倒・解体の非和解的露派斗争の対象であり、
相互に止揚されることは有り得ない。革マルと
日共、北海道・九州等において現存的にも物
理的な露派斗争が部分的に存在している。我々
は組織力の現存的差異性、当面する日共斗争
の組織化に里力をあげなければならぬこと等
により、直ちに全面化、全面化はしない。我々
は我々の組織的前進とともに煮つまてくるこ
とは必至であり、その準備は必要である。但
し北海道においては日共マルとの露派斗争に勝利
してはならぬれば、組織若幼などのためである
ことであり、諸勢力を引き込み大胆に斗争とい
く必要である。二の向の我々の組織的前進に充
補して革マル日共大の同志をテロリ、数名の同
志が軍備を負っているが、敢然と反撃していな
い。これはならない。革マルは革命的左翼とい
なく、統一行動の対象ともなく、物理的解体の
対象である。

② 次にK.P.、四トロである。二の二派は「入
管二派」として、マルツヨア民族主義に転落し
ている。「抑圧民族としての責任の自覚と、
「被抑圧民族の利益を争い」と々の空語的強調
の小市民主義になり下がり、革命的マルクス主
義から逃れしている。入管斗争の自然発生性を
草刈場にするべく矮小な舞台を設けているのである。
K.P.の直接的には海老原事件に対して、無原則
的に官制的かつ右翼的の陰謀を企てつつも、「
日共連」指下部を野並派捕まれていることを根

拠として、こゝより本質的K.P.「安楽派」
「6月派」の総括を促すデタメXにしている

ことを根拠として現況を深めている。「6月派
戦」で竹竿で秤切隊に衝突したのは左派の左派
大目付であり、かつ海老原事件以後左派のそ
の交遊状況におちいり、清文、水谷「敵幼
の心々目」を担った部分も後退し、日和見主義
へと転落し、「選挙の敵」へと向かわせられて
いる。我々はK.P.三物勢力として利用すること
はあつても、従つて過渡的に共同斗争の対象に
していくが、当面の反帝統一戦線の再編の過程
は具体的に反帝連絡協議の対象としての共同行
動の対象とはしてはならない。四トロはその細根
戦術からみても純粹のプロスタであり、何一つ
評価すべき内容がない。前斗争の局面を切
り拓いてきたことも一度もない。入管にもぐり
こみ東京で100程度の切戻可能となっているが、
我々は統一行動から四トロをハジキ出さつつ、
断固たるイデオロギー斗争、物理的斗争により
彼らを取逐して行くであらう。仙台の同志は果
北大に、豊通において勝利的に露派斗争を進め
ており、今后東京・仙台で推進していく。

③ M.L.は兎も毛共主義、武装スターリン
スト入死化した。6月斗争の総括をめぐり党内
斗争が路線の争ひまに「整刃」として進行し、
組織的統一性はカマカマにたっている。「赤光
」の定期発行ができません。東京での切戻は5名程
度でしかない。彼らは「ハルは駄目」「自派脱
社脱党、共産脱党」などと自らも言っているが、
我々の創から反帝統一戦線の彼方に放逐してや
らねばならない。
④ 我々は反帝統一戦線の再編を地共斗、ソ
ビエト型組織の建設に向けて実現していくので
あるが、それは当面ハル反帝行動委の五分助
を建設を踏まえ、反帝連絡会を統一行動の
基幹として組織化することから出發する。

ハズナシニコール

ハ前ページのフアス

10・7 緊急の 仲買根拠阻止斗争。早朝の
時京決意行品川駅ホーム結集。8時30
分六郷土午。9時集会。デモ。

農大、専員大、泉誠女子大、東大、海城高、
渋谷地区校舎を中心にしたX名。中部は明治
工部、短大、本校、重修、法政、中大、上智

10・8 10・8三周年統一行動、行動隊/時明
大和泉結集。他は地区校舎として4時
30分日比谷公園。6時集会。デモ。

日比谷高、大塚高を中心にしたX名。北部
は立教、東洋大、教育大、日医、順天医、東
大、文京地区校舎、北園高を中心にしたX名。

徹防去留留理由指示裁判。9時東京地
裁前結集。西部・中部・工部各5名。

南部は明治学院、東邦医、皇千東野、明治付
属高を中心にしたX名。三多方は武蔵美、東京

10・16 BUND政治集会。板橋区民会館。5時

経済大を中心にしたX名。東部はX名。千葉

10・18 佐下訪米阻止斗争。

は千葉大、千葉工、千葉商、桐明を中心にしたX

10・20 皇国初員。夜AIF総天起集会。中
場・時間未定。

X名。神奈川はX名。群馬は群馬大、高崎

10・21 防衛方斗争。12時明治和泉AIF総天
起集会。5時明治公園新一集会。防衛
方デモ。

10・16 BUND政治集会、庄外防衛勝利を旗印
に何か何んでも実現していかなくはなすな。

方デモ。

※
して暗闘を怠らなまきに、メモ、手帳等を携
盗すると、留府の隙に軍ム所を襲撃すると

10・28 再三回小面裁判斗争。首都圏現地初員
の予定。

たの事実がたなり起きている。そして前記4
体の中で我々以外の部分は、テロリスト集

(追加) 10・9 徹防去裁判。10・8夜から泊り
二泊。

団であり、権力は我々をテロリスト集団に似
せ、そのような宣伝を公然と行い、我々に

《補註》

次に現下の国家権力の反軍制権は、まさか
もなく或はBUNDに集中的に行われようとし
ている事実を皇国の同志に提起し、革命的警戒
心と規律を促し、既に権力は10月までに対
する「特別警戒体制」に入り、①京浜安保隊を
(反政団)、②BUND(とりわけY・R・G)、③赤軍
系 ④アナキストを特にマークし、マン・ソー
マンによる監視を行ひ、他党系とは異なる質
の押在を及ぼすようとしている。我々の周囲には
特種部隊の威嚇があり、そして早くも我々の監視
を及ぼすようとしている。我々の周囲には

に革命の共主義者としてオオ次BUNDの
建設に邁進する我々を他行的に破壊すること
に国力を注ぎ込んでいるのである。昨秋赤軍系へ
の押在が、赤軍系のやうなことでない事に対
しても全く赤軍系のやうなことでない意識的
に我々の宣伝を流し、赤軍系そのものの組織潰
滅を急ぐというのと同じ攻撃が我々に対し
てなされるようとしているのである。首都の

※↓

警察庁では旧赤軍派担当の部分が大半はBUND
D担当に委ねられ、残り残々への攻撃は執拗を極
めている。赤軍派「中央軍」の大菩薩峠軍事訓
練が、その当初より権力に全面的に察知されて
おり、権力が当初より一階を昇張っており、何
も知らない赤軍派が二階を登り全日階集を完
了した最終日に全層逮捕されたという話には
ならない思を我々は絶対くり返してはならない
。55人の逮捕者の内50人がスル転じ、全そを
自白し、未だ勾留されているカードル部分か「
完全黙秘」を貫徹していようと、もはや権力は
何も怖くことはないという非喜劇的現象を自己
の本質的敗北とこそ捉括することなく、「軍事
芸術」などとヤニをかき「中央軍隊長」上野某
の如き腐敗を我々は絶対止揚していかねばなら
ない。現在の残々の斗争戦術が67年10月8日
前の形態であるにもかかわらず、権力の弾圧は
一貫してエスカレートしており、騒乱罪一破所
法の適用の常態化も真点にて、組織破壊その
もの狙っているのがある。例えば、10月1日
読売新聞はBUNDはRGが支配を、Aエフは
特別行動隊が防衛庁侵入をマカウとどこいてい
なるとい宣言を意図的に権力と一体化して流こ
している。この様にこそBUNDに對こそまはごん
な要とい弾圧をこようと当然だという傾向を
生み出すために再策とされているのだ。まさしく一
階の油断が直接的な全面的組織破壊に直結する
ことと深く銘記せよ。KPの「海老原事件」か
金山逮捕とこそKP弾圧そのものを利用されて
いる歴史に注視せよ。権力の弾圧は狂暴であら
う。同時に巧妙である。中央の同一な権
力に逮捕された時の経緯は象徴的である。即ち

某同志は極く短期間に解放された。勿論完全
を貫徹している。だが権力はこれか入短期
に解放し狙いである。たのである。つまり獄中
で長期の完黙をこなしているRGの同志に對し
て、コヤの某が全部自白したから、すぐに釈
放されたのだ。指し者が吐いて、その方のに
お前も自白せよ、そうしたら保釈にこそやる
ええ、こうして桐鳴かなされている。我々
は権力に對して一切非妥協的、非和解的な対
応を貫徹すること、そして同盟の同志に對し
ては全面的に信頼すること、そして、こうこ
に攻撃をはね返していかねばならない。そう
した政治的団結を実現すべし中央某権力を連
破していくのでなければならぬ。こうして
権力の弾圧攻撃を粉碎し、堂々と防衛する革命
的警戒心かなくては、そしてこれに踏まえた
大胆な行動力かなくては、10月31日の大爆発
も一切机上の計画でこなくなることと深く
確認し、全同の同志諸君に、うした体制の
確立こそ叫びかけておきたい。

この様にこそBUNDに對こそまはごん
な要とい弾圧をこようと当然だという傾向を
生み出すために再策とされているのだ。まさしく一
階の油断が直接的な全面的組織破壊に直結する
ことと深く銘記せよ。KPの「海老原事件」か
金山逮捕とこそKP弾圧そのものを利用されて
いる歴史に注視せよ。権力の弾圧は狂暴であら
う。同時に巧妙である。中央の同一な権
力に逮捕された時の経緯は象徴的である。即ち